

落語の仕草

落語は耳から聞くだけでなく、目で見て楽しむ芸でもあります。

顔の向きを変える（上下を切る）以外にも、登場人物を仕分けその行動や心理を表現するうえで、仕草と表情は大きな役割を果たします。

高座では座布団に座ったままですので、仕草と言っても上半身だけの動きに限られます。そういう厳しい枠があるからこそいろいろな工夫が施されて洗練されたものになったといえるでしょう。

落語家が高座で使う道具は原則として扇子と手拭です。扇子はキセルに見立てられるのが最も多いですが、そのほか箸、筆、杖、刀、四分の一ほど開いて徳利とか算盤に、また、全部開いて盃に見せたりします。

手拭は職人さんが握る手拭そのものにして使うほか、煙草入れや帳面、本になります。そのほか紙入れ、巾着、財布になるほか小さく丸めて金包みにもなります。

以上

《人物の型》

演者・林家正雀



女房
(縫い物をする)



職人
(片袖ヤゾウ)



職人
(手拭を握って
タンカをさる)



花魁
(吸い付け煙草の
キセルを客に渡す)



商人
(キセルでタバコを吸う)



商人
(ソロバンを入れる)



お婆さん



武士
(袖の中で手をつつ
ばらかす=突き袖)



武士
(殿様またはお奉行様)



子ども



農民
(馬を引っぱっている)



農民
(鉦豆ギセルで
タバコを吸う)

《動作の型》



食う



書く
(扇子が筆、手拭の
帳面に書きつける)



読む
(扇面を手紙に
見立てる)



三味線をひく



酔っぱらう



大盃でのむ



天秤棒をかつぐ



駕籠をかつぐ



船の櫓をこぐ



幽霊



刀を大上段に振りかぶる



凧をあげる